

第3学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『変わるわたしたちの暮らし』

(教科書：『小学社会 3・4 上』 p. 98～119／学習指導要領：内容（5）ア，イ）

2. 小単元の目標

地域の人々の生活について、古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子及び地域に残る文化財や年中行事について調べ、地域の人々の生活の変化や人々の願いについて考えることができるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
今も残る昔の道具や地域の文化財・年中行事について関心をもち、市の人たちの暮らしの移り変わりについて進んで調べようとする。	生活をよりよくしようと努力してきた人々の願いや、これからの市の発展について考えることができる。	道具や学校の移り変わりを中心に、文献や地域の人々への聞き取り活動などを通して調べ、年表や発表資料としてまとめることができる。	市を中心とした地域の人々の暮らしは、およそ100年の間に大きく変わってきたことを、理解することができる。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

祖父や祖母が子どものころからこの地域に住んでいたり、祖父や祖母と一緒に住んでいたりするという家庭の児童は少ない。クラスの半数以上の児童の家庭は、この地域に移り住んできて数年か、長くても20～30年程度という状況にある。また、ほとんどの児童がマンション住まいである。

そのため、昔の道具もあまり見ることはないし、暮らしの移り変わりについての興味・関心も高くない。昔の道具に触れたり、地域めぐりをしたりして、くらしや地域の変化と、自分たちの生活とのかかわりについて意識づけを図ることが重要であると考えます。

(2) 教材について

自分たちの市（区、町、村）を中心にした地域の人々の生活について、家屋や道具、交通などの移り変わりを中心に調べたりそれを年表にまとめたりして、地域の人々の生活は、およそ100年の間に大きく変わってきたことを理解できるようにするとともに、地域の文化財や年中行事に関心を持ち、人々の願いについて考えることができるようにする。

基本的には上記の内容を受けて、児童の興味・関心にそって調べ学習を選択できるようにする。校区の歴史にとどまらないように市（または区）という単位を意識できるようにしたいと考えるので、そのための働きかけが必要になってくる。

調べ学習が多岐にわたることが予想されるが、単元を通じて次のことは、児童なりに理解できるようにしていきたい。

- 時代とともに、文化や習慣が変わってきたこと。
- 生活をよりよくしようと、人々が努力を続けてきたこと。
- 市（または区）が広がり、発展してきたこと。
- 時代が変わっても守り続けられている伝統や行事、人の心があること。

（３）指導上の工夫・留意点

これらのことを理解できるようにするため、次のような活動を行っていく。

ア. 昔の道具を家から持ち寄り、時代や使い方を紹介し合う。使えるものは使ってみる。

イ. 郷土資料館を見学する。

ウ. 校歴室（校内の資料室）を探検する。

エ. ゲストティーチャー（校区の人）から、小学校時代の過ごし方や市の移り変わりなどの様子について聞く。

オ. 副読本や、図書室の資料、インターネット等で調べ学習を行う。

カ. 校区の人と一緒に、市（または区）の移り変わりについて年表作りや表現活動を行う。

キ. これからの市（または区）がどのようなになっていけばいいか絵や作文にまとめる。

本来なら、小グループで、昔から校区に住む人の家に聞き取りに行ったり、地域の文化財を探しに出かけたりしたいところであるが、冬の積雪のため、それがままならない。その代わりとして世代の違うゲストティーチャー（２人）から話を聞く活動を設定した。このことにより、普段意識しなかった「自分たちの住む地域」に愛着をもち、その後の調べ学習や表現活動に生きてくると考える。同時に、「これからもよりよい地域社会を作っていこう」とする気持ちを育むことにつながることを期待している。

５．小単元の指導計画（総時数 22 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① ② (つかむ)	家にある古い道具を紹介しあい、それらの道具がどのように使われていた物なのか調べる意欲をもつ。	○古い道具を探し出し、使い方を発表し合う。 ・これは何に使うのかな。 ・いつごろ、どうやって使っていたのかな。 ○手に持って観察したり、実際に使ったりしてその感想を話し合う。 ・まずで、ものの量を量っていた。 ・雪げたは、底が高い。足が冷たい。	◇各家庭に、お願いの文書を配布し、協力を依頼しておく。 ◇ただ、道具を持ってくるのではなく、子どもが使い方を説明できるようにお願いしておく。 ◇スケッチをさせながら特徴をとらえさせる。

		これらの道具は、いつごろどのように使われていたのだろう。 ○昔の道具について一つ調べることを決め、次の時間までに調べてくるよう指示する。(教科書、資料集、図書館の資料、インターネットなど)	◇短所だけでなく、長所にも注意が向くように言葉かけをする。 ◎釜 ◎ます ◎雪げた ◎五玉そろばん ◎天秤ばかり ◎火のしごて ◎洗濯板 など ◆生活の様々な場面に使われていた昔の道具について、関心をもって調べようとしている。 (関・意・態／発言)
③ ④ (調べる)	郷土資料館を見学して、道具の種類や移り変わり、市の広がってきた様子を調べることができる。	郷土資料館には、どんな昔の道具があるだろうか。 ○郷土資料館を見学して、昔の道具を調べる。 ・いろいろな道具があるね。 ・これは、どうやって使ったのかな。 ・よく考えてあるな。 ・道具はだいぶ変わってきたんだな。	◇見学のめあてや記録(絵カード)の仕方などしっかり確認しておく。 ◇郷土資料館の方と事前に打ち合わせをする。 ◇道具がいつごろ使われていたかに着目させる。 ◎火鉢 ◎釜 ◎蓄音機 ◎電話 ◎櫓ごたつ ◆道具だけでなく市が港を中心に発展してきたこと、町村合併を繰り返し大きくなってきたことにも関心をもって調べようとしている。 (関・意・態／ノート)

⑤ ⑥ (調べる)	洗濯板を使った洗濯の体験をして、昔の暮らしぶりを考える。	洗濯板で洗濯をしてみよう。 ○ 洗濯板とたらいで洗濯する。 ・一枚一枚洗うので、手間と時間がかかる。 ・何回も水をかえて洗う。 ・手でこするので疲れる ・冬は手が冷たくなる。 ・固形石けんを使う。 ○洗濯板で洗濯をした感想を書いて発表する。	◇洗濯するもの（ぞうきんなど）を用意する。 ◇できれば校区の方か、校内で洗濯板を使つての洗濯経験のある人から具体的に教えてもらいながら行う。 ◎教科書 ◆ 洗濯板が、いつごろ、どのように変わってきたか関心をもって調べようとしている。 (関・意・態／ノート)
⑦ (つかむ)	絵年表の作り方を知る。	道具の移り変わりがわかる絵年表を作ろう。 ○ 絵年表の枠作りをする。 ・祖父母が生まれ育ったところ、父母が生まれ育ったところ、わたしたちが生まれ育ったところに分け、道具の欄を作り、洗濯の道具の絵カードを貼る。	◇郷土資料館で何気なく見てきた道具でも、移り変わりがあることを強く意識させる。 ◇道具の他に、校区で移り変わりがわかるものは何かグループで話し合わせ、調べ学習の視点をもたせる。 ◎教科書 ◆道具の使い方や気づいたことなど絵年表に整理して表すことができる。 (技／絵年表)

⑧ ⑨ (調べる)	校歴室を調べて、道具や暮らしの移り変わりをどのようにまとめていくか見通しをもつ。	校歴室で昔探しをしよう。 ○昔の小学校の写真や年表を見て、気づいたことをメモし、話し合う。 ・子どもの服装や頭髪が今と違っている。 ・校舎が木造だった。 ・まわりが水田だった ・学校の子どもの数が大きく変化した。 ・学校には古い歴史があるんだな。	◇資料の解釈や調べ方、まとめ方など、子どもの願いに応じて支援する。 ◇校区の人（卒業生）から話を聞いてみたいという強い願いを引き出す。 ◎尋常小学校の表札 ◎大正時代や昭和初期の卒業写真 ◎新旧校舎の写真 ◎児童数の推移のグラフ ◎学校の年表 ◆自分の調べたいものを決めることができる。 (技／ノート)
⑩ ⑪ (調べる)	父母の世代が小学生のころの様子を調べる。	父母の時代の学校生活や地域はどんな様子だったのだろう。 ○ゲストティーチャー(父母の世代)から、学校の話进行、当時の様子を調べる。 ・100 周年記念式典が盛大に行われ、その時に中庭ができた。 ・校舎が新築され、プールもできた。 ・学校の前の通りに、けやきが植えられた。 ・おじいさん、おばあさんの時代に、小学校には子どもがたくさんいた。 ・バイパスが開通して、校区の人口が急に増加した。	◇ゲストティーチャーを選び、どんな話が引き出せるか打ち合わせる。その際、授業で利用できる小道具や写真がないか、確認する。 (※地域の様子に関心を向ける話の構成) ◎ゲストティーチャー ◎創立100周年記念誌 ◎学校要覧 ◎沿革誌 ◎校舎や行事の写真 ◎卒業アルバム ◆学校の様子とともに、校区の人口が増加し、学校周辺の田畑が宅地が変わってきたことを理解することができる。 (知・理／ノート)

⑫ ⑬ (調べる) 【本時】	祖父母の世代が小学生のころの様子を調べ、昔の暮らしにもよいところが多くあったことや今に至るまでの歴史があることに気づく。	祖父母の時代の学校生活や地域はどんな様子だったのだろう。 ○ ゲストティーチャー（祖父母の世代）から話を伺い、当時の様子を調べる。 ・ 勉強や勉強道具、校舎、服装や遊びが違う。 ・ 学校に兵隊がいた。 ・ 学校のまわりは水田が広がっていた。 ・ S川やK川の水はきれいだった。 ・ N駅ができるまでは水田が多かった。「堀がなくなって、かなり様子が変わった。」 「変わったものが多いけれど、変わらず残っているものもあるんだな。」 ○ 昔の写真や地図を読み取り、当時の様子を調べる。	◇戦争を体験された方（祖父母の世代）から、戦時中のごとについても話していただく。 ◇町村合併のことについても触れていただく。 ◇当時はS川が分かれていて、堀が幾重にも流れていたこと、そのため、農家には舟があり、それで物を運んでいたことや湿田のため蓮根を作っていたことなど、話していただく。 ◇N駅ができたのはゲストティーチャーが卒業した後だが、地域の様子が変わるきっかけの一つとして、別に触れていただく。 ◇市全般について調べ学習がしたくなるように、ゲストティーチャーには、校区より広い範囲の地域の話をしていただく。 ◎戦時中の卒業写真 ◎町村合併図 ◎N駅ができた頃の写真（新旧） ◎K川の写真 ◎1940～1950年代の地図 ◎N堀の写真 ◆学校の様子とともに、戦時中の様子や、戦後になって学校周辺や市には大きく変わるきっかけがあったことを理解することができる。 (知・理／ノート)
-----------------------------------	---	--	---

⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ (まとめ)	自分のめあてにそって絵カードを完成させ、道具の進歩と暮らしや社会の変化を関連づけてとらえ、絵年表や紙芝居、劇などにまとめる。	市がどのように変わってきたのか調べて発表会をしよう。 ○グループでテーマを決めて、新潟市が広がってきた様子や人々の暮らしについて調べる。 ・ 港や堀、船が活躍していた様子。 ・ N駅やB橋など交通にかかわる様子。 ・ 電化生活の普及。 ・ N国体、N地震。 ・ N堀、K川の埋め立て。 ・ 町村合併や各地域の名所・旧跡、祭りなど。 ○調べたことを絵年表や紙芝居、劇などにまとめ、発表会を行う。	◇時代が明治、大正、昭和、平成と長きにわたっており、史実も多いので、混乱しないように助言する。 ◇いつの時代もよりよい生活を求め人々は努力をしていることに気づかせ、今の自分たちの生活もその上に成り立っていることをおさえさせる。 ◇これまで調べた祭りや文化財が現在まで続いていたり、残っていたりする理由を考えさせる。 ◎B橋の写真 ◎市100年の年表 ◎町村合併図 ◎市内の小学校創立の年表 ◎図書室の文献 ◎インターネット ◆道具の変化とともに、市が広がって発展してきたことを理解することができる。 (知・理／ノート)
㉑ ㉒ (深める)	市の10年後の未来がどうなっているか理想像を考える。	これからの市を考えよう。 ○今までの学習を踏まえ、これからの市への願いを作文やポスターにまとめる。	◇DVD「N市の移り変わり」(N市小学校教育研究会制作) ◆今の地域や市のよさを生かしながら10年後の理想像を考えることができる。 (思・判・表／ノート)

6. 本時の指導 (第12時)

(1) 本時のねらい

ゲストティーチャーへの聞き取り活動を通して、昔の暮らしにもよいところが多くあったことや今に至るまでの歴史があることに気づくことができる。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○ゲストティーチャー（祖父母の世代）の小学生時代の話聞く。 T: ☆☆さんの小学校時代の学校や学校のまわりは、どんな様子だったのだろう。今と違うことや今でも変わらないことは何か、気をつけてお話を聞きましょう。 C: 戦争中は、小学校にも兵隊がいて厳しかった。戦争が終わると、墨塗りの教科書を使い、神社で勉強した。 C: 学校のまわりは水田で、冬になると竹スケートをしていた。学校の脇の神社で鳥の卵をとっていた。 C: S川から堀がいくつも引かれていた。舟が行き来していたし泳いだりもしていた。 C: K神社の祭りがとても楽しみだった。たくさん店が出て、賑わっていた。600年も続いているそうだ。	◇子どもがゲストティーチャーの話を理解しやすいよう、感情移入しやすいように、ゲストティーチャーの略歴を紹介する。 ◇☆☆さんの話に合わせて写真やキーワードを提示して、子どもが理解しやすいようにする。 ◇子どもが質問したいことを絞ったうえで質問させる。
15	○ゲストティーチャー（祖父母の世代）が小学校を卒業してから20年間ほどの話を聞く。 T: ☆☆さんが小学校を卒業してから、学校のまわりはどのようになったのでしょうか。 C: 1955年頃から区画整理をして堀がなくなった。田んぼもぬかるみがなくなった。 C: N駅は1958年に作られた。それから少しずつ道がよくなってきた。 C: N地震の時は橋が落ちたり、道路が壊れたりして大変だったんだ。	◇子どもが質問したいことを絞ったうえで質問させる。子どもから質問が出ない場合は、教師が学習のねらいに迫るような質問をする。
15	○今の時代と祖父母の時代の共通点をとらえる。 時代が変わっても、変わらないものは、あるのだろうか。 C: 子どもが遊びたいと思うことです。 C: 子どもが学校で勉強することです。 C: 祭りを大切にしていることです。 C: 生活をよくしようとしていることです。 T: 今日の振り返りを書きましょう。 C: 昔の暮らしも、いいことや楽しいことがあったんだな。 C: 昔の人たちががんばって、生活をよくしてきたんだな。 C: もっと昔のことを調べてみたくなったぞ。	◇3年生なので、あまり高度な考えは出てこないと思われるが、子どもの表現を大事にしたい。 ◇最後の振り返りで、昔の暮らしにもいいことや楽しいことがあった、昔の人たちががんばってよりよい生活を目ざしてきたという内容が書かれることを期待したい。 ◆時代の変化と同時に、今と昔の共通点、昔の人への感謝の言葉などを表現できる。 (思・判・表／ノート)